

令和5年7月12日

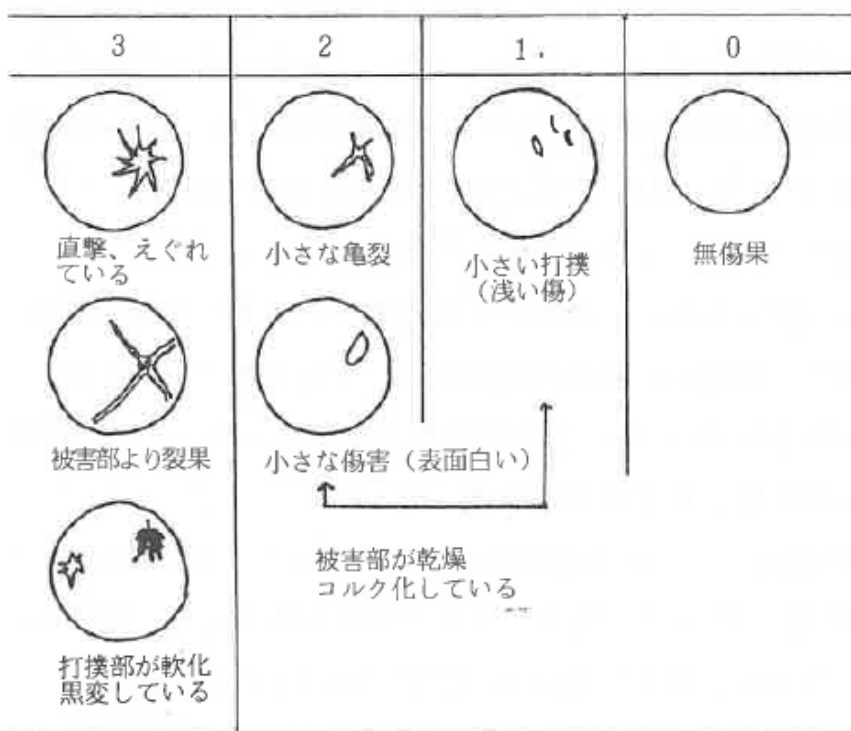
農業総合センター専門技術指導員室

ナシ降ひょう後の技術対策について

令和5年7月10日、県西地域等において局地的に降ひょうがあり、ナシ園で被害が発生しました。ナシの生育ステージは果実肥大期であり、今後は果実の被害程度を観察しながら、下記の内容を参考に適切な技術指導を行ってください。

1 丁寧な摘果で良果を残す

- ・果実の被害程度指標（下図）を参考に、果実の傷の程度を確認しながら摘果を行う。また、各出荷組織の出荷販売対策に従い実施する。
- ・被害程度3の果実は、腐敗および落果するので摘果する。
- ・被害程度2の果実は、観察しながら段階的に摘果する。「豊水」以降の品種は、軽微な傷であれば回復が期待できる場合もあるので丁寧な摘果で良果を残す。
- ・被害程度1の果実は、基本的に残し、経過を観察する。
- ・摘果は被害面、上面をよく確認しながら丁寧に実施する。
- ・果軸の損傷はコルク化し、軸折れの原因となりやすい（特に豊水）ので、果軸の損傷を確認して摘果する。
- ・着果が不足する園地では、被害程度にかかわらず着果させて、結実量の確保に努める。



2 樹体管理

- ・果そう葉、新梢葉が損傷を受けている場合は、樹体への影響も大きいので、以下の対策を行い、今後の生育を観察する。
- ・太い枝の損傷部分は、塗布剤により保護する。
- ・主枝、亜主枝、予備枝先端の新梢を欠損した場合、新たな新梢発生・伸長を待ち、育成する。
- ・葉面積の確保のため、枝や新梢の切り戻しはしない。
- ・降ひょう害によって著しく着果不良となった園においても、花芽着生が劣ることはあまりない。

3 薬剤散布の実施

- ・基本的には参考防除例に準じて実施するが、殺菌剤では胴枯病など広範囲に効果のある薬剤を選択する（黒星病、胴枯病、アブラムシ類等の発生に注意する）。
- ・来年以降の生育のためにも、参考防除例どおりの防除を続ける。

4 その他

- ・生産組織や J A と連携し、実態調査を繰り返して収量及び品質の予測を立て、出荷対策の検討に役立てる。